

WinCGI のインストールと設定

WinCGI は Web サーバーのリモート管理用 CGI 集です。

WindowsNT4.0(W/S)・Windows2000(Pro/Server)・WindowsXP(Pro)・WindowsServer2003・WindowsVista・Windows7・WindowsServer2008(R2)の Internet Information Services(IIS) 上で動作させることを目的としています。

サーバーの再起動やサービスの管理・コマンド実行などほとんどが管理者権限の必要とするもので、匿名ログオンでは実行できない機能を使っています。WinCGI を利用する場合の IIS への登録の手順を WindowsXP(Pro)を例にして説明します。

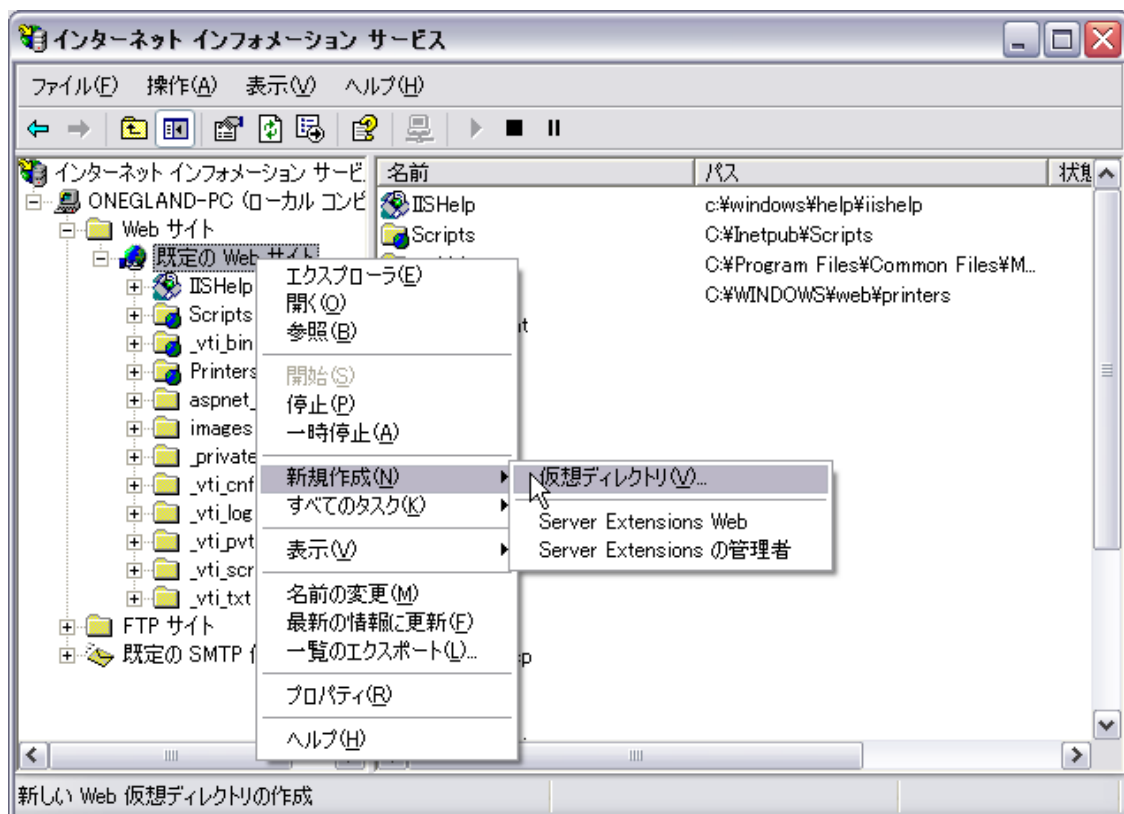
※IIS7 以降の設定については wincgi4iis7.pdf に解説してあります。

1. 仮想ディレクトリの追加

事前にダウンロードした wincgi.lzh を解凍し適当なフォルダへ配置します。

IIS マネージャを起動し(図 1)、仮想ディレクトリを新規作成します。

図 1



ウィザードに従って作業を進めます。(次ページ：図 2～図 6)

図 2

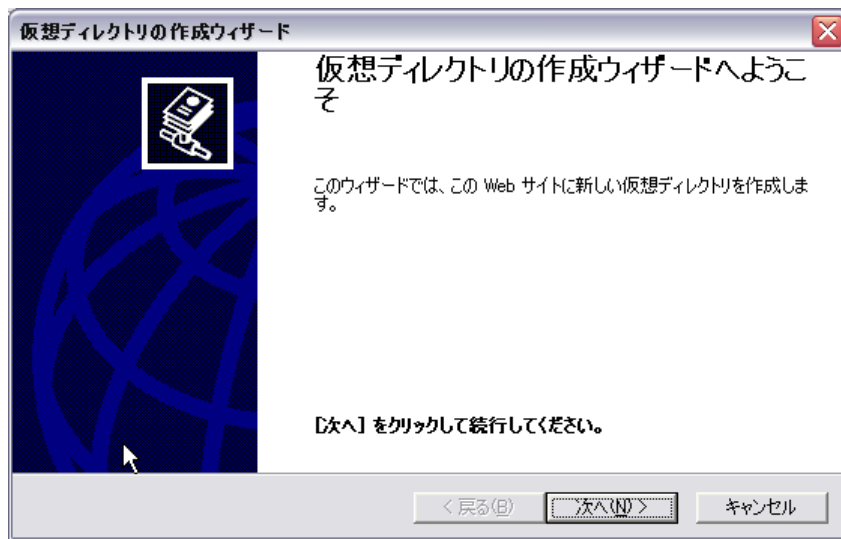


図 3

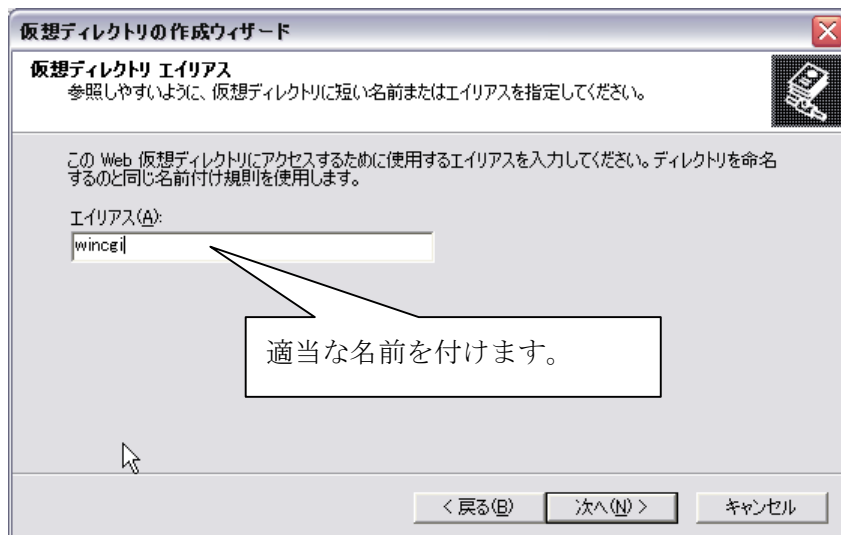


図 4

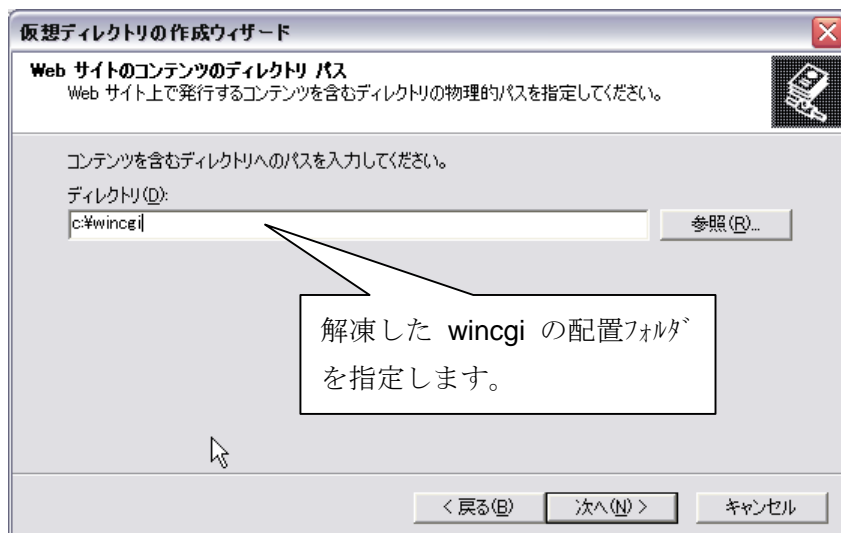


図 5

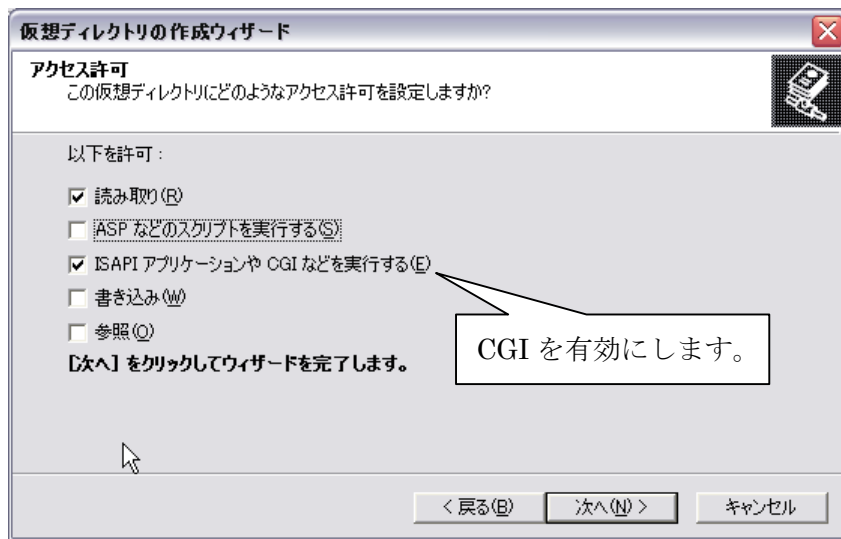


図 6



2. プロパティ設定（ディレクトリセキュリティの変更）

作成した仮想ディレクトリのプロパティを変更します。（図7）

図 7

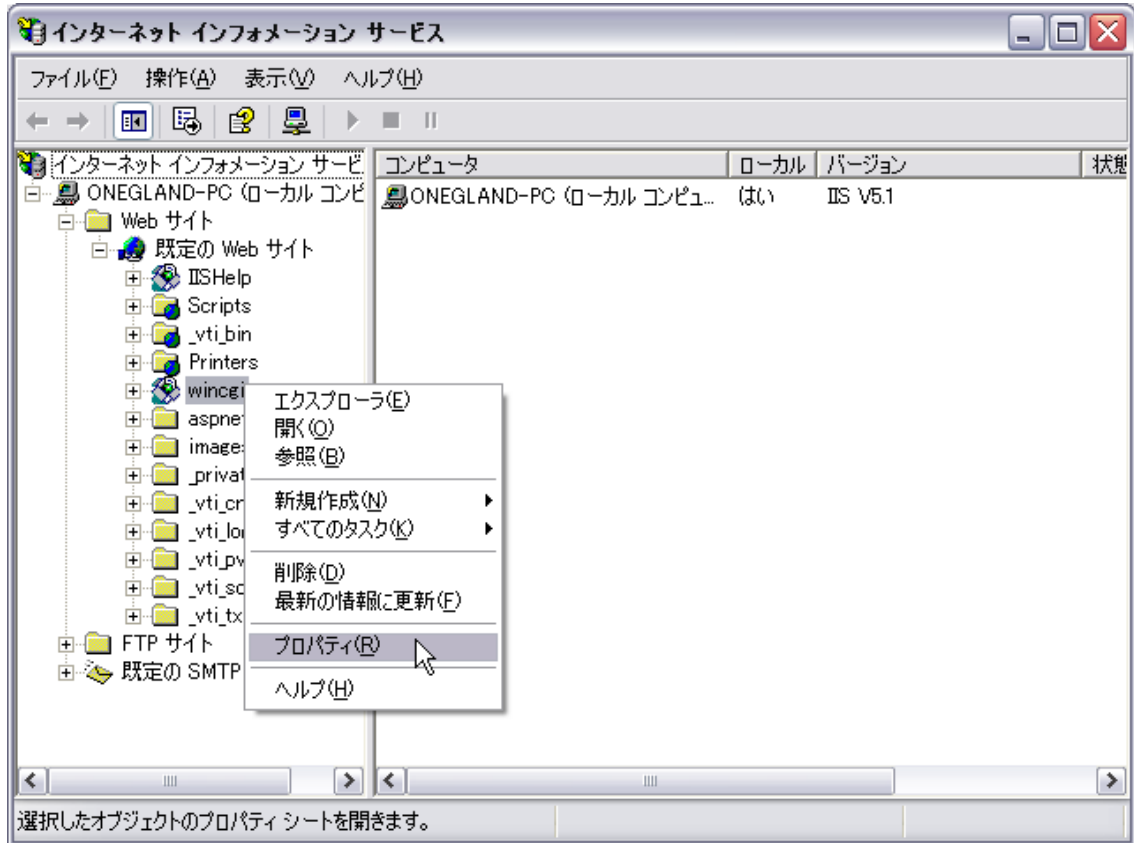


図 8

仮想ディレクトリのプロパティ（ここはこのままで）



図 9

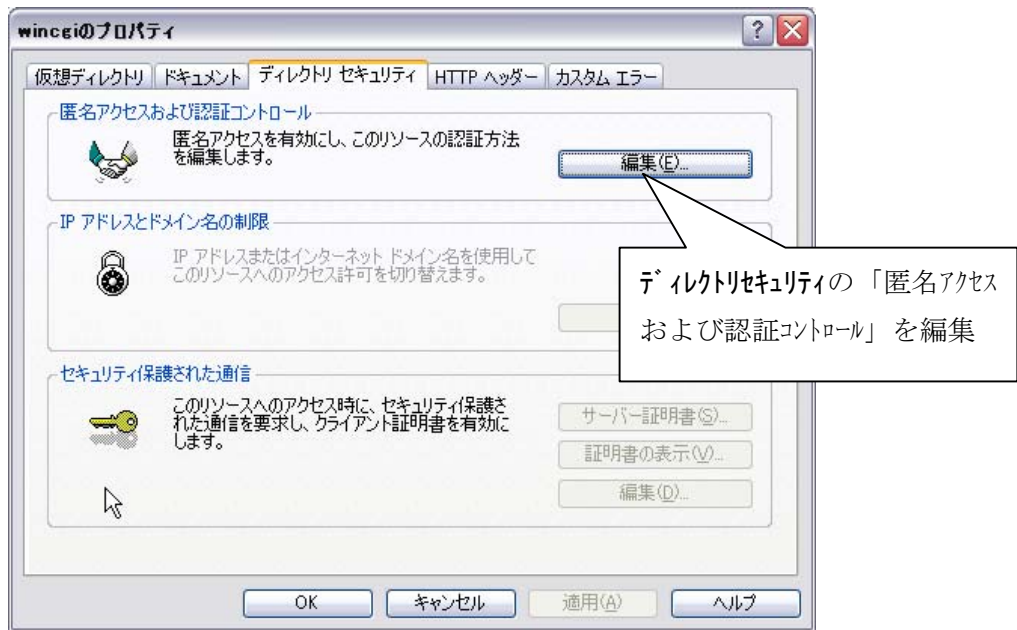
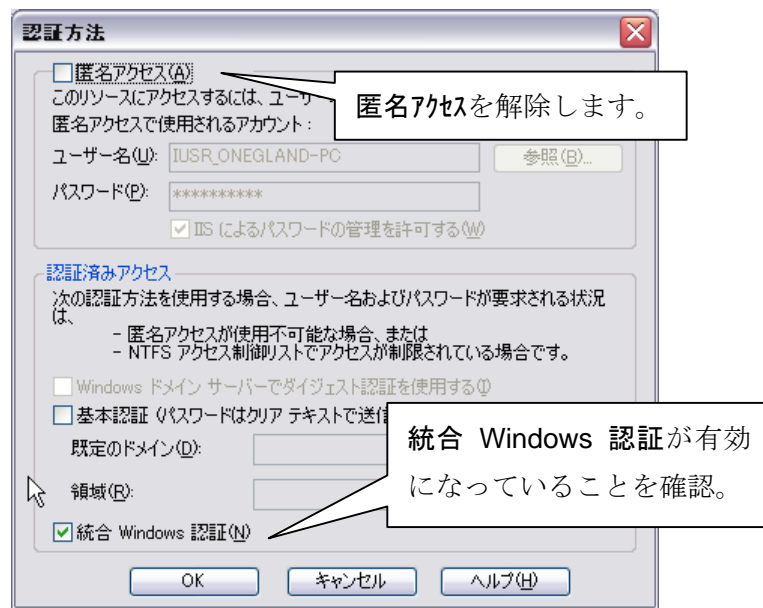


図 10

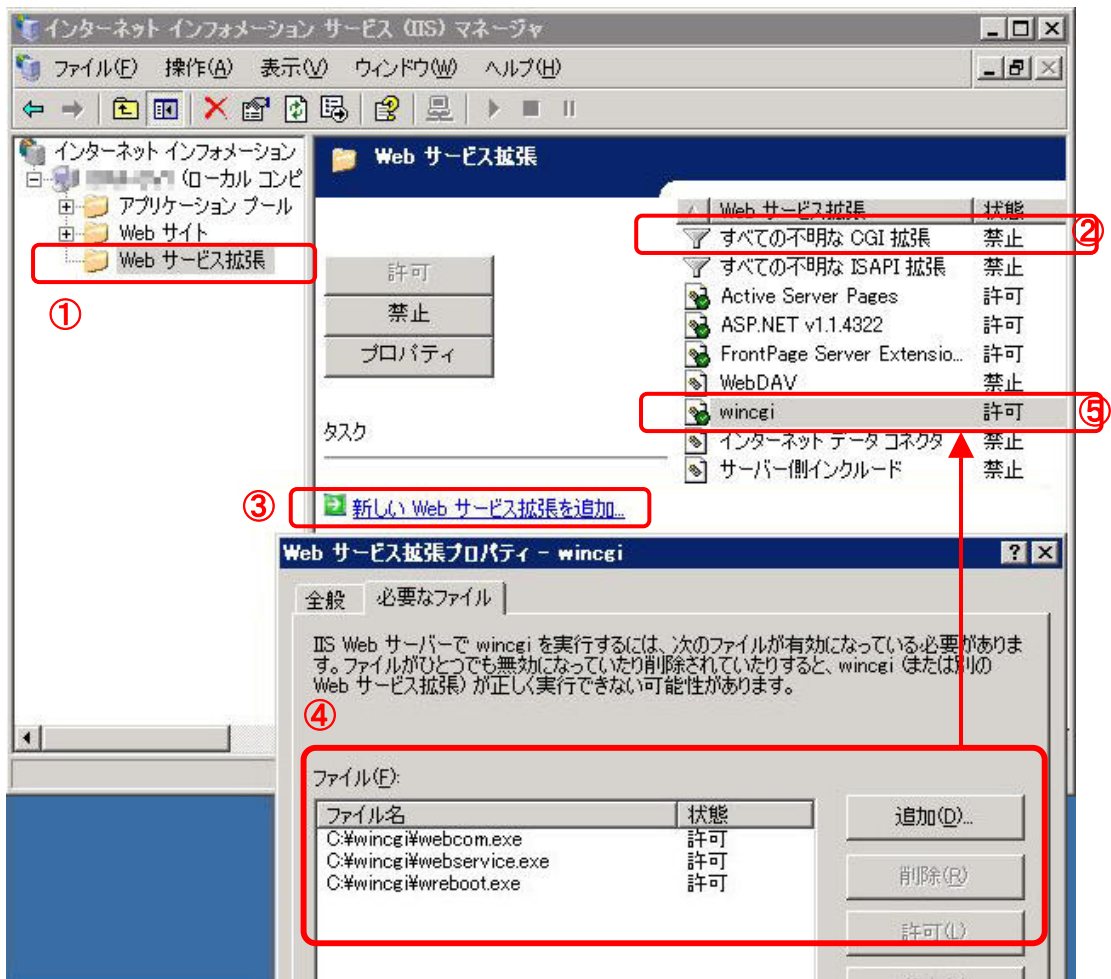


この設定は WinCGI を利用する上で必須事項です。

WindowsServer2003 の場合、更に追加設定が必要です。次ページ参照。

■ WindowsServer2003 の追加設定

図 11



- ① Web サービス拡張をクリック
- ② 一番手っ取り早く設定する場合は、すべての不明な CGI 拡張を「禁止」から「許可」に変更するだけでよい。
- ③ セキュリティを考慮して WinCGI のみの許可を行いたい場合は「新しい Web サービス拡張を追加」をクリックし
- ④ 拡張名を適当に入力し(判りやすく wincgi と入力)、追加ボタンを使い、実行ファイルの「webcom.exe」「wreboot.exe」「webservice.exe」「webcap.exe」「webinfo.exe」の 5 つを追加する。※autocapt.exe はサーバー上で実行させるものなので不要。
- ⑤ 新しく作成するとリストに追加される。

3. WinCGI の実行に必要なもの

WindowsXP や WindowsServer2003 では OS の標準システムで動作しますが、WindowsNT4.0 や Windows2000(Pro/Server)では使用環境によっては追加インストールが必要になる場合があります。

- **GDIPplus** : キャプチャー機能(次ページ解説有)を使う場合、**autocapt.exe** を起動すると図 12 のようなエラーが発生する場合、Microsoft 社サイトから必要なファイルをダウンロードし **wincgi** フォルダへコピーする必要があります。



図 12

ダウンロードサイト :

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=6A63AB9C-DF12-4D41-933C-BE590FEAA05A&displaylang=en>



- **ADSI** : サービスの管理には **Active Directory Service Interfaces** を使用しますが、これは **WindowsNT** では標準で装備されていませんので、別途ダウンロードする必要があります。

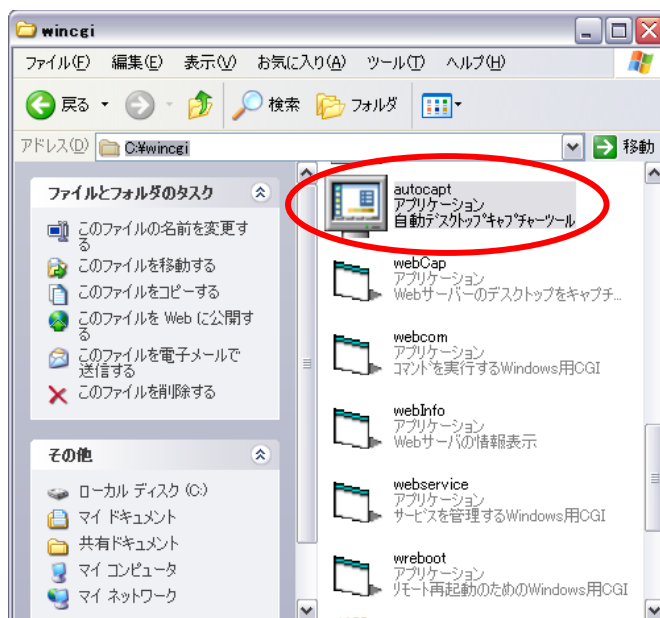
ダウンロードサイト :

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=f4bf2bf6-ed15-4789-9c63-e849d530a6df&displaylang=ja>

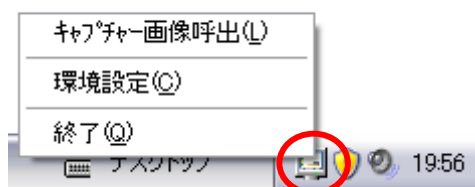


4. キャプチャー機能

リモートで Web サーバーの画面を監視するには、サーバー上で `autocapt.exe` を常駐させる必要があります。



タスクトレイのアイコンを右クリックしメニューから「環境設定」を選択。



インターバル: キャプチャー間隔(秒単位)

キャプチャーモード: 2方式から選択

各方式の詳細は `help.htm` を参照

出力ファイル名: 最新画像を上書保存

スクリーンセーブ制御: スクリーンセーバーが起動しているとそれがキャプチャーされてしまうので、自動解除する機能があります。

5. WinCGI 動作サンプル

- 1) ログイン (Windows 認証のため必ずログインダイアログが表示されます)



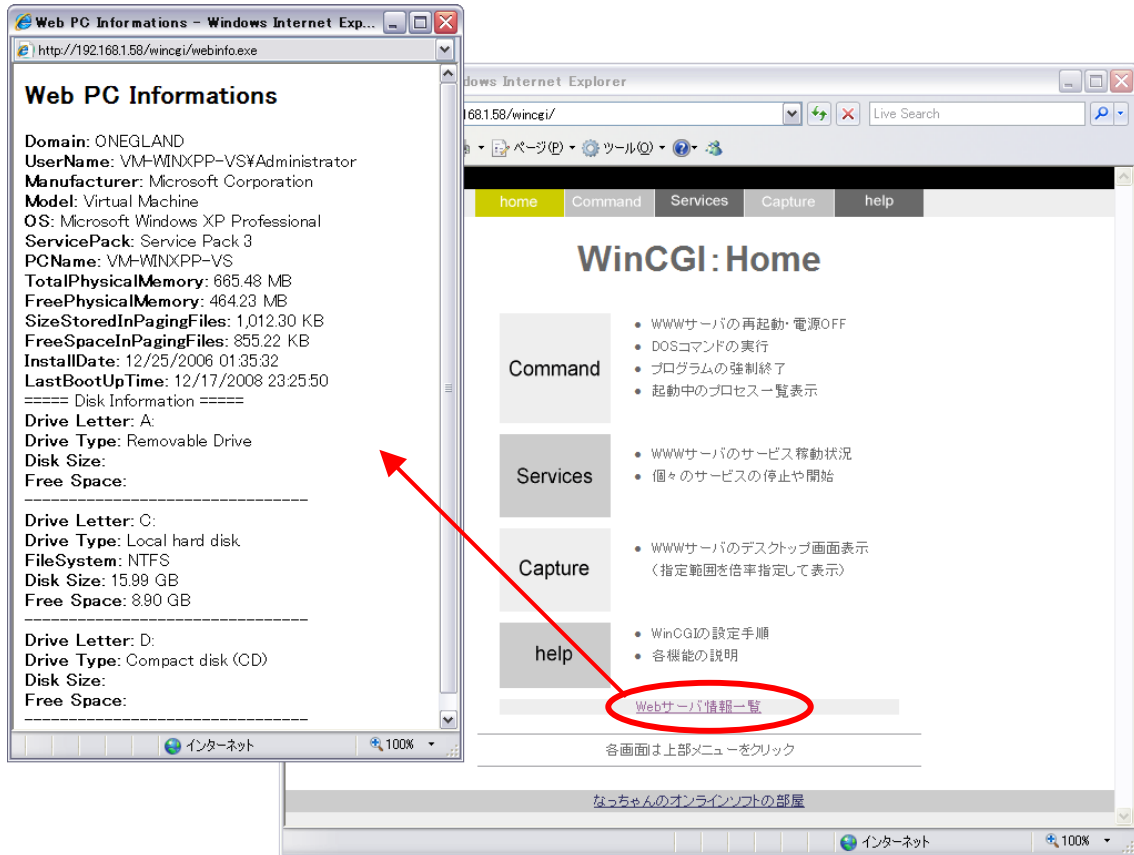
- 2) WinCGI Home

トップページ

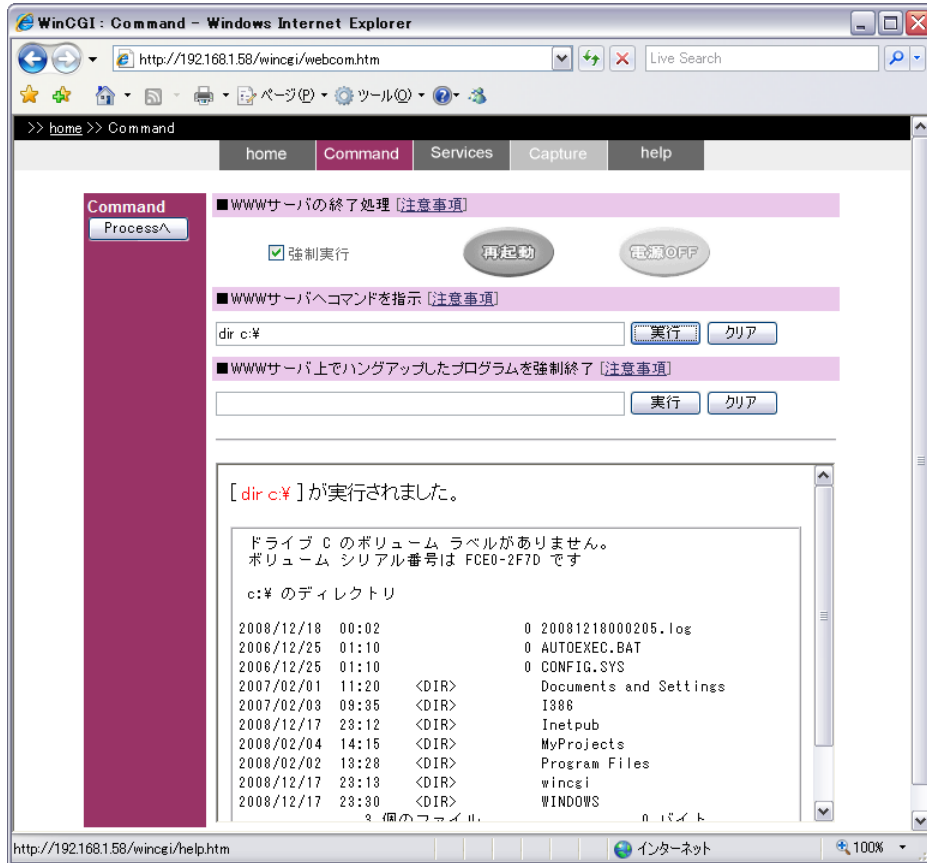


「Web サーバ情報一覧」を表示

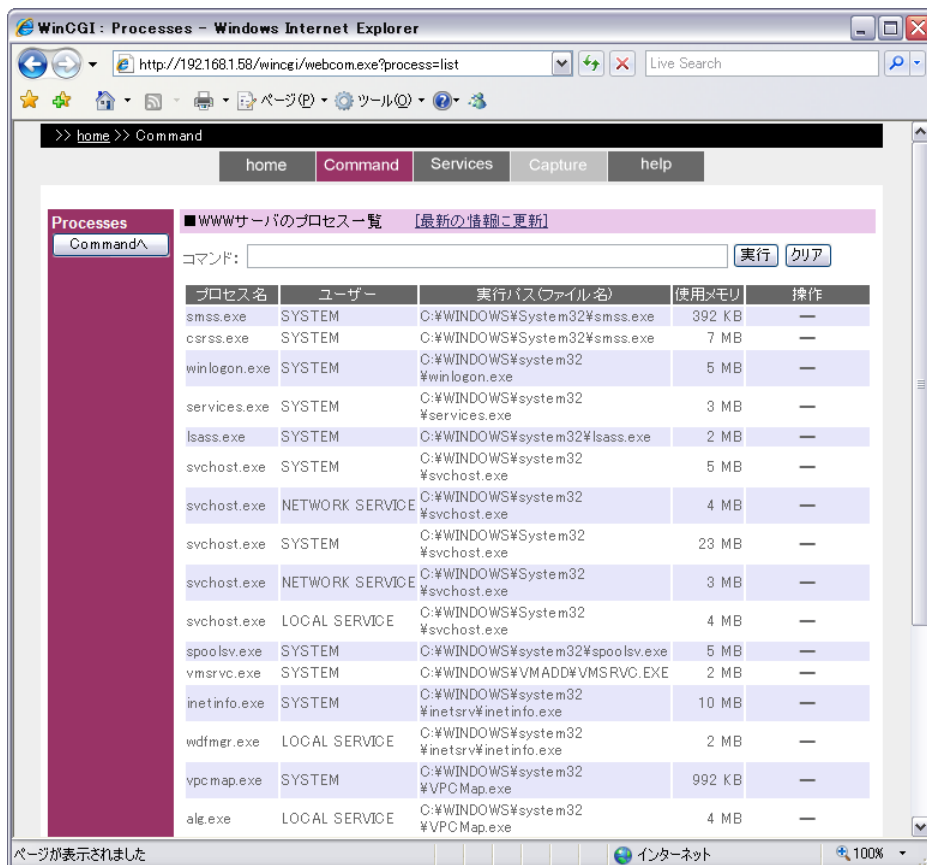
Web サーバの OS、メモリ、ドライブ情報等を表示できます。



3) Command コマンドを実行したところ

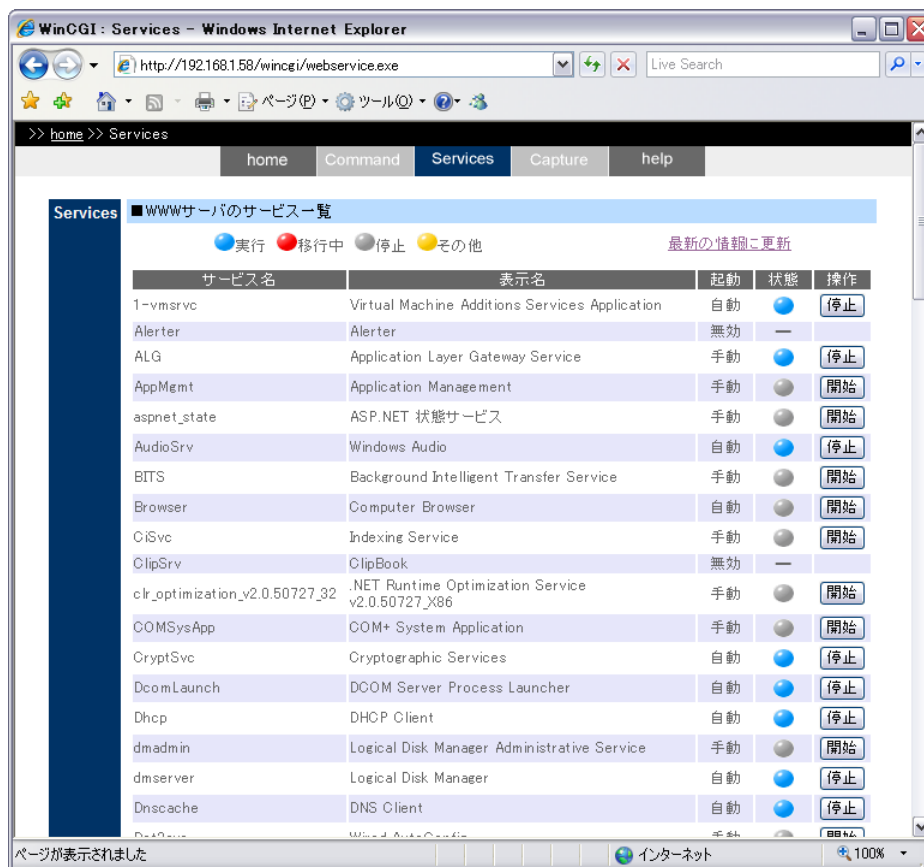


Process 一覧表示 (「Process へ」をクリック)



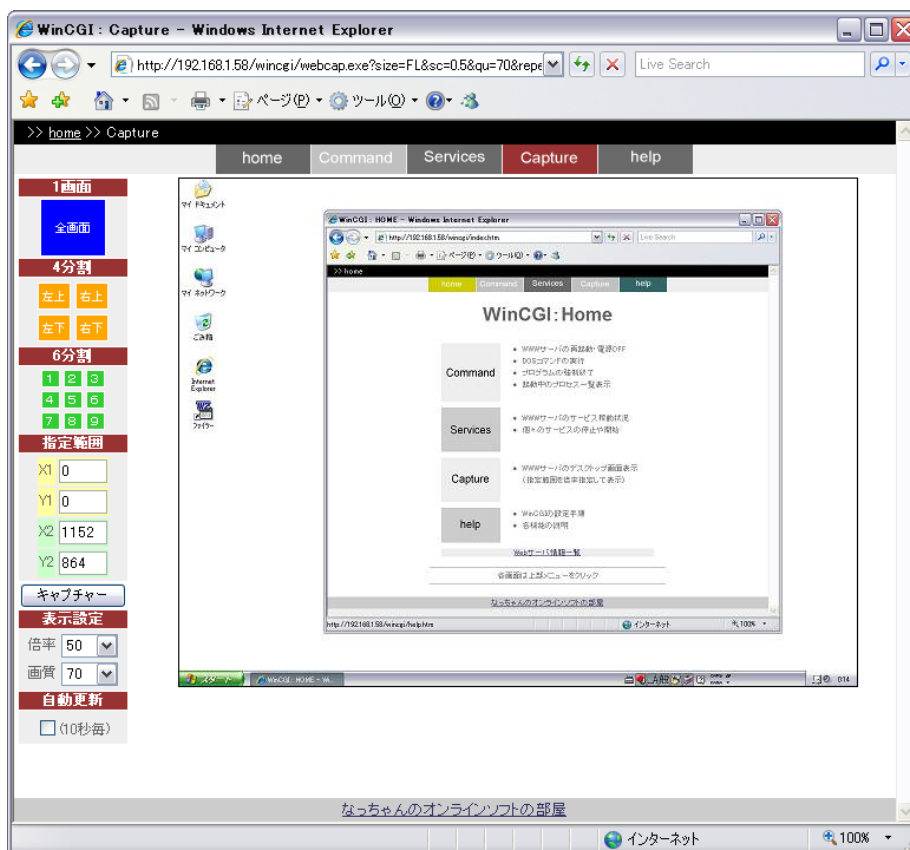
Process 一覧のログインユーザーによるプロセスは「終了」と「再起動」ができます。ただし、再起動は必ずしも元の状態で起動するとは限りません。パラメータを持つものは大概失敗します。

4) Services サービス状況一覧



再起動させたい場合は、「停止」ボタンを押し、画面の更新後「開始」ボタンを押します。

5) Capture (この機能には8頁に説明のある autcap.exe の起動が必要です。)



倍率 50%で Web サーバ のデスクトップ を全画面表示



キャプチャー操作パネル (左図)

全画面の取得から 4 分割・6 分割した箇所を切り出して表示できる。

その範囲をさらに手入力で修正した指定範囲での切り出しも可能。

倍率も 10%～150%まで、画質は JPG 画像の精細度を指定(100 が最高画質)

自動更新をチェックすると、10 秒毎に最新の画面を取得表示する。

注：毎回最新画像であるためには、autocapt.exe のインターバルを 10 秒以下に指定する必要がある。

6) Help

WinCGI の注意事項が書かれています。

